

京都市京北文化遺産センター

企画展 2023.10.8-11.23 展示解説

周山古墳群の調査  
—京北の古代史解明に向けて—



龍谷大学考古学実習室・考古学研究室  
協力：京都市文化市民局文化芸術都市推進室  
文化財保護課

# I 周山古墳群の調査

—京北の古代史解明に向けて—



龍谷大学考古学実習室・考古学研究室では、京北の歴史を解明することを目的に、2012 年から当地の遺跡を対象に学術調査を行っています。周山古墳群の調査を皮切りに、かみなかじょう上中城跡の測量・発掘調査、関連遺跡の踏査を行い、資料を入手してきました。そして、2022 年から4箇年計画で周山古墳群の本格的調査を始めました。これまでに1～4号墳の墳丘部を調査し、墳丘規模や構造、年代の手がかりが得られました。

今回の展示は、およそ半世紀前にさかのぼる古墳群の発見と近年の調査成果を整理し、周山古墳群に葬られた人々を考え、京北の古代史を解明する契機とするものです。

発掘調査および展示で御協力いただいた方々、諸機関に心より御礼申し上げます。

2023 年（令和5）10 月

龍谷大学考古学実習室・考古学研究室  
京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課

玄関

チラシ  
イーゼルボード（読み）  
アンケート記入用紙  
机 投函箱 設置

<Ⅰ 導入>

(1) 周山古墳  
群の調査

<Ⅱ 京北盆地と周山古墳群>

(2) 京北盆地  
と周山古墳  
群  
(3) 京北の遺跡  
分布図  
(4) ドローン  
写真

<Ⅲ-1 これまでの調査>

(5) 同志社  
大学の調査

<Ⅲ-2 龍谷大学の調査>

(6) 同志社大学  
の調査  
(7) 京北の調査  
(8) 旧京北町  
の調査  
(9) 龍谷大学  
の調査  
(10) 測量調査  
の成果

ワークショップ  
コーナー  
「京北文化遺産  
ポストカードを作ろう」

展示解説映像

片面ケース

順路

同志社大学日誌・遺輪

周山古墳群地形模型

(11) 周山古墳  
群測量図

(12) 2号墳の調査成果  
(13) 4号墳の調査成果

(26) これか  
京北古代史  
解明

(22) 調査の  
まとめ  
(23) 周山古墳寺  
改修軒瓦  
(24) 交通の要所  
としての京北

周山古墳寺  
関連遺物

龍谷大学出土遺物

<Ⅲ-2 龍谷大学の調査>

(15)~(22) 測量・発掘調査成果の写真8点

<Ⅳ これからの京北古代史解明>

山国隊展示

企画展「周山古墳群の発掘～京北の古代史解明に向けて～」 展示配置



## II 京北盆地と周山古墳群



右京区京北には、縄文時代から現代に至る 135 箇所の遺跡があります。特に、約 1500 年前の古墳時代後期には、横穴式石室を有する古墳が弓削川ゆげや大堰川おおいに面する丘陵上に多く築かれ、府下でも稀な古墳群地帯が形成されました。

地域内で有力者が生まれたのは、古墳時代前期末から中期初め頃と推測されます。今回取り上げる周山古墳群や山国の愛宕山あたごやま古墳群が有力者の墓の代表例です。

周山古墳群周辺には、1300 年～1400 年前の周山廃寺はいじや周山瓦窯跡がよう、工房集落である高梨遺跡たかなしが密集して発見されており、古代では弓削川と大堰川合流付近が中心地になりました。その後、平安時代には山国地域が平安京そまの杣となり、中世には山国荘が経営、南北朝時代には北朝の光厳天皇こうごんにより常照皇寺じょうしょうこうじが開山されるなど、山国が王権との関係を強めることになります。また、右京区京北には、下弓削銅鐸出土地しも ゆげ（弥生時代中期）、上中城跡（平安時代後期～中世）、周山城跡（近世）など、そのほかにも数多くの遺跡が存在しており、地域の歴史を物語っているのです。

# 周山古墳群と京北町の遺跡



1 九門屋敷跡 2 鳥谷古墳群 3 ふくがなる古墳群 4 宮の谷古墳群 5 上中古墳群 6 筒江夏路古墳群 7 弾正古墳群  
 8 八幡宮裏山古墳群 9 岩乃鼻古墳群 10 筒江遺跡・古墳群 11 中道寺跡 12 上中太田遺跡 13 上中城跡 14 上中遺跡  
 15 下弓削遺跡 16 矢谷遺跡・古墳群 17 矢谷奥古墳群 18 塩田古墳群 19 矢谷奥遺跡 20 塩田口古墳群 21 永林寺跡  
 22 福德寺 23 下弓削銅鐸出土地 24 狭間谷古墳群 25 狭間谷遺跡 26 しが谷古墳群 27 井崎遺跡 28 井崎寺跡  
 29 大寺窯跡 30 出口古墳群 31 五本松西遺跡 32 五本松遺跡 33 奥堂遺跡 34 卯滝谷遺跡 35 大年古墳群 36 周山城跡  
 37 八津良城跡 38 周山窯跡 39 東山遺跡 40 高梨遺跡 **41 周山古墳群** 42 周山廃寺跡 43 祇園谷遺跡 44 折谷古墳群  
 45 殿橋遺跡 46 折谷東古墳群 47 下町遺跡 48 鳥居八幡遺跡 49 鳥居古墳群 50 塔遺跡 51 塔城 52 塔村古墳群  
 53 三宅谷古墳群 54 愛宕山古墳群 55 院谷遺跡 56 比賀江古墳群 57 院谷古墳群 58 中江古墳群  
 59 中江城 60 最玄寺経塚 61 六々遺跡 62 大野古墳群 63 長池古墳群 64 常照皇寺経塚 65 霊願寺跡

### Ⅲ 発掘調査で明らかになったこと 50 年前

## 1 同志社大学による調査

1974 年 7 月、同志社大学考古学研究室（代表：森浩一氏）によって、初めて周山古墳群の発掘調査が実施されました。

当時の調査日誌から、測量班が 1～3 号墳とその周辺部を対象とした地形測量、発掘班が 1 号墳の発掘を行ったことが判明しました。

1 号墳は方墳で、南北約 16.5m、東西約 15m、高さ 1.7m の規模と推定されました。発掘班は、1 号墳の墳丘北西角、南西角、西裾などを調査して、墳丘斜面全面に 10～20cm の角礫かくれきを使った葺石が葺かれていること、古墳頂上の平坦面には葺石がなく盛土のみであったことなどを明らかにしました。

また、墳裾から、円筒埴輪、朝顔形埴輪、蓋形埴輪きぬがさがたの破片が出土し、1 号墳が 4 世紀末から 5 世紀初めのもので、当時、古墳の頂部平坦面に立て並べられていたと推定されました。

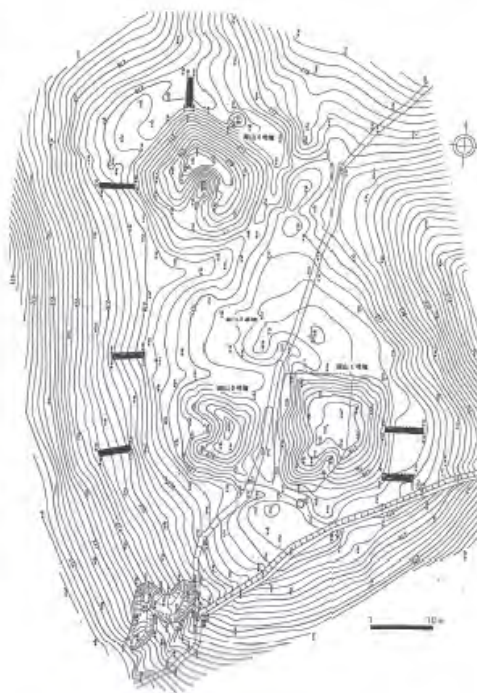
地域の首長墓の姿を解明する契機となった歴史的調査といえます。

23 年前

## 2 旧京北町による発掘調査

2000 年、旧京北町教育委員会による周山古墳群（周山 1～4 号墳）の範囲確認調査が行われました。この調査は、町立周山中学校（現市立京都京北小中学校）のグラウンド造成工事が古墳群西側で、道路工事が古墳群南・東側で計画されたことが契機となりました。調査区は、古墳群周囲に 6 箇所設けられました。その結果、古墳群は工事による影響を受けないことが分かり、この地で保存されることとなりました。

周山古墳群と同時に、南に存在する高梨遺跡、高梨経塚も調査されました。高梨遺跡では、奈良～平安時代の竪穴住居 7 棟や鉄製品、焼土などが確認され、工房跡と考えられています。また、高梨経塚では拳大の礫で覆われた塚が 3 基確認され、その内の 1 基からガラス玉が出土しました。



2000年の周山古墳群の調査区設定図  
(黒塗りが調査区、  
京北町教育委員会2001 p.10  
掲載図より引用)

11年前  
昨年・今年

### 3 龍谷大学による調査

京北地域には現在 180 基を超える古墳が確認されていますが、その多くは古墳時代後期に属する小規模な円墳です。一方、古墳時代中期以前の古墳は数少なく、当該期に遡る可能性がある周山古墳群は京北地域の古代史を解明する上で極めて重要な遺跡です。しかし、当古墳群は過去に同志社大学と旧京北町教育委員会が発掘調査を行ったのみで、詳しい年代や被葬者像などについては明らかになっていません。

そこで当大学では、2012～2013 年に周山 1 号墳～4 号墳の測量調査を行い、その成果も踏まえて 2022 年には周山 2 号墳を、2023 年は継続して周山 2 号墳と新たに周山 4 号墳の発掘調査を実施しました。



現地説明会風景

(2023 年 8 月 27 日)

地域の方々に遺跡の存在を周知し、京北の歴史により関心を持って頂くため、発掘調査期間中に現地説明会を開催しました。

## 測量調査の成果

周山古墳群は、正確な全体図が知られていなかったため、全体の測量図を作成することにしました。

2012年の調査では、1号墳について25cm間隔の等高線図を作成しました。基準となる測量点は国道162号線から移動し古墳群東側に原点を置き、トラバース測量と平板測量を用いて50分の1の縮図を作成しました。この古墳群では初めて国土座標を用いた正確な図ができました。地表面観察も行い、葺石の基底を推定し、改めて1号墳は20m×17mほどの方墳であると推定しました。また、1号墳の北西側の高まりを3号墳と想定し、併せて図化を行いました。

2013年の調査では、前年行った調査の再検討と2号墳、4号墳の測量を新たに行いました。2号墳は13.5m×12mほどの方墳で、1号墳と辺をそろえて造られていることから、近い時期のものと推定されました。

一方、4号墳は17m四方ほどの方墳ですが、向きは1・2号墳と異なり、別時期の古墳と推定されました。葺石などは確認できませんが、周溝が一部で確認されました。また、墳頂や南側周溝は盗掘などにより確認が困難となっています。

# 周山古墳群測量図



## 周山2号墳の調査成果

昨年と今年  
★

2023 年の調査では、初めて北辺と東辺の墳裾を確定できました。特に、古墳の墳丘外表の下部は、大ぶりの石材を使った葺石とその基底石が丁寧に施されていました。また、転落石の観察から葺石の上部は小ぶりの石材が使われたと推定できます。

墳丘規模は、昨年の成果と合わせ、東西 12m、南北 13.5m 程度の方墳とわかりました。中央の埋葬施設は確認することができませんでした。なお、2号墳の墳丘南斜面からは、古墳時代の土器片が出土しています。年代は、1号墳と方位が同じで東西に並ぶことから5世紀代と推定しています。



埋葬施設の想定された中央付近では墓坑の痕跡を確認できなかった。

周山2号墳中央部（2-2 中央 Tr.）（推定主体部付近 西から）



墳丘斜面上部の葺石に用いられたと考えられる小ぶりの礫が  
転落した状態で出土した。

周山2号墳北辺斜面（2-2北Tr.）の転落石  
（北から）



斜面下部の葺石は大ぶりの角礫を使用し、  
石の間に粘土を詰めて積んでいる。

周山2号墳北辺斜面（2-2北Tr.）の葺石と基底石  
（北から）



周山2号墳東辺斜面（2-1東Tr.）の3Dモデル  
(Metashape)



北東隅角は、削られて原形をとどめていなかった。

周山2号墳北東隅角（2-2北東Tr.）の葺石  
（東から）



南斜面は相当削られ、転落石を含む土で埋まる。

周山2号墳南辺斜面（2-2南Tr.）の葺石と基底石  
（北から）



周山 2 号墳西辺調査区 (2-1西Tr.)  
(ドローン撮影、西から)

## 周山4号墳の調査成果



古墳の規模や葺石、埴輪などの確認を目的に発掘調査を行いました。

墳丘の南西部を調査した結果、葺石や埴裾は確認できず、古墳の大きさは明らかになりませんでした。しかし、5世紀後葉～末葉の須恵器杯蓋や甕が出土したことから、古墳の造られた年代が推測できるようになりました。

これらの遺物は、埋葬施設にあった副葬品が後世の破壊を受け、墳丘外へ移動したものと考えられます。



周山古墳群全景（2022年8月、ドローン撮影、北東から）

周山古墳群は、京北盆地の入口の丘にあります。当地を訪れた人々に存在を誇示するかのようです。



周山 4 号墳の南辺付近調査区 (4-1南Tr.)  
(南西から)

## 調査のまとめ

### 周山古墳群の被葬者像

右京区京北の古墳時代最初の首長墓は、山国にある愛宕山古墳といわれています。この古墳からは、銅鏡や玉類、鉄製武器、鉄製工具など多くの副葬品が出土していますが、その墳丘が一辺 20mほどと小規模な方墳であることが特徴です。周山古墳群からは、愛宕山古墳のような副葬品はまだ出土していませんが、やはり小規模な方墳であることに共通点があります。

古墳時代の首長墓は、大和に代表的なように前方後円墳が一般的ですが、丹波の首長墓には方墳が多いことが知られています。ここに、周山古墳群の被葬者の性格を知る手がかりがあると思われます。

ヤマト政権は古墳時代を通じて全国に統一的な政治的連合体を造ろうとします。その達成の証が古墳の墳形や副葬品内容の画一化に現れると考えられます。しかし、丹波や出雲など一部地域では、特に前期・中期は前方後円墳ではなく方墳や前方後方墳を首長墓とすることが多いです。そして、この点に周山古墳群の被葬者の、丹波地方にある京北地域の首長としての独自性をうかがうことができるのです。

## Ⅳ これからの京北古代史解明

右京区京北は、京都中部の山間地でありながら、古くから日本海や琵琶湖につながる交通の要所で、多く人々が集住し、また往来したところでした。

京北地域に残るたくさんの遺跡のうち、特に古墳時代には当時の政権と関係して一定の政治力を持つ人々が出現したことが想像されます。古墳時代は中央政権が山陰や近江、北陸との交流を強めたことを背景に、各地の要所を掌握した首長に力を借りて交通路を確保する狙いがあったのでしょうか。古墳時代に築かれた地域力は、飛鳥時代後期（7世紀後半）になって、渡来系の有力氏族である秦氏の援助を得た周山廃寺の建立を導くことになります。

右京区京北には、豊かな自然とともに、遺跡や寺院、神社など多くの文化遺産が残ります。私たちは、先人が引き継いできた文化遺産を詳しく調査し、その意義を考えることで、「京北らしさ」を知ることにつながるものと考えています。

素晴らしい文化遺産を有する右京区京北の良さを世界に発信することがこれからの大きな課題と言えましょう。

## 周山廃寺の改修瓦（周山1号墳南東端採集）

2012年8月の龍谷大学による測量調査の際、1号墳南東端の畦状の高まりから瓦が採集されました。この軒丸瓦は、重圈文縁素弁八葉蓮華文軒丸瓦と呼ばれ、周山廃寺の改修時の軒瓦の一種です。

周山廃寺は第二次世界大戦終戦直後の1947年12月、現東京国立博物館の石田茂作・三宅敏之の両氏が行った発掘調査によって、中堂、塔、東堂、西堂を備えた伽藍を有する古代寺院跡とわかりました。

2018年に西堂が再調査されています。瓦や土器の出土状況から飛鳥時代後期から平安時代まで存続しており、それ以降も存在していたと推定されています。中国の唐代において製作されたと考えられる鏡や風鐸、鉄片が発見されており、地域を代表する有力寺院であったのではないかと考えられています。

本資料は、伽藍中心部から100m北の丘で発見されていることから、当地付近にも関連する施設の存在が推定できます。



採集軒丸瓦と同范

周山廃寺の軒瓦（京都市埋文研報告 2018-6 より引用）

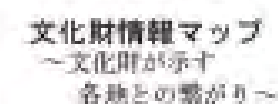
## 交通の要所としての京北

右京区京北には多くの古墳や諸寺院が見られるように、当地域は様々な地域に繋がる街道や河川を有することから、古来より交通の要所として重要視されてきました。

右京区京北を南北に貫く周山街道は、若狭と京都を結ぶ物流の盛んな街道でした。この街道は周山で分岐し、伊勢に繋がる花背街道と、摂津に繋がる山国街道の2つに分かれています。

それだけではなく、花背街道沿いを流れる桂川が、周山街道沿いを流れる弓削川と周山で合流し、大阪の淀川に流れ込んでいます。つまりこれらの川は、京北地域と京の都、そして大阪を結ぶ重要なルートであるといえます。

また、平安時代以降の京北地域は、このような水運を利用した木材供給地として発展していきました。特に平安京造営の際には、桂川の水運を利用して当地域から木材を運んでいたことがわかっています。



【例】**この国は、** 日本 **に** 近い **ので**、 旅行 **が** 便利 **です。**  
 この国は、日本に近いですので、旅行が便利です。  
 この国は、日本に近いので、旅行が便利です。  
 この国は、日本に近いので、旅行が便利です。

◎上海東方衛視 總裁／羅康賢：  
在紐約的公餘時間，我常和紐約的華裔人士談，中  
國人的創業精神在國際市場上，已十分普遍。

[illegible]

【以下同】  
 以下同

[illegible][illegible]

**英語訳題：愛と知識の時代**



【読後感】 中堅 小説（社会派小説）  
 読後の： 解題と序文が加味されている。これは読後感（同）  
 1999年（1999）に読後： 読後感として1999年、二に  
 読後感として1999年

【注意】本稿中、脚注は、引用の代り、  
本文中にて要旨がわかるよう記載されている。参考文献  
のリストは、本文に記述がある、あるいは知れぬ事項について、  
追加の情報を得るために、役立つ。

— 138 —

**【新聞有線】 港島特刊**  
 位於中環的「香港國際郵輪中心」日前舉行「2006年香港郵輪展銷會」，匯集世界各地郵輪經紀，為港島旅遊注入新血，吸引旅客。

訂立該項合約，以證明該項合約，即係該項合約之真正合約，且  
 該項合約之真正合約，即係該項合約之真正合約。

**紅樓夢：歷史與文藝的交匯**

**【新聞簡訊】**  
 中國科學院上海分院、上海科學技術出版社與上海科學出版社聯合出版，  
 上海科學技術出版社與上海科學出版社聯合出版，上海科學技術出版社與上海科學出版社聯合出版。

[illegible][illegible]

(『上中城跡の研究』龍谷大学考古学実習室 2021 年 p.76 図 44 引用)



周山古墳群地形模型（1:100）の作成風景

### <展示スタッフ>

同志社大学関連資料展示解説等：大下未結・辻成実・原田しいな・矢田有沙  
 ワークショップ「京北文化遺産ポストカードを作ろう」：高垣柚香、大田悠月・永立明利  
 周山古墳群地形模型：藤原菜穂子・濱口葵・齊藤宗一郎・水上采音

（以上、文化遺産学2回生）

龍谷大学関連資料展示解説等：池浦里咲、木井荘太、岸本悠馬（文化遺産学3回生）  
 廣澤公紀（3Dモデル担当）・佐々木拓人（文化遺産学4回生）

展示サポート：鎌田雄介（文学研究科修士1回生）、神所尚暉（研究生）

展示監修・指導：國下多美樹（文学部教授）・木許守（同教授）

### <展示概要>

名 称：企画展「周山古墳群の調査—京北の古代史解明に向けて—」

主 催：龍谷大学考古学実習室・考古学研究室、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課

期 間：2023（令和5）年10月8日（日）～11月23日（木）

会 場：京都市京北文化遺産センター

〒601-0321 京都市右京区京北塔町中筋浦8-1

Tel：075-744-0492

開館時間：午前10時～午後4時

開館日は毎週月・土・日曜日、祝日（年末年始除く）

協 力：京北森林組合・京北の文化財を守る会・同志社大学歴史資料館、水谷壽克、若林邦彦

編 集：龍谷大学文学部考古学実習室・考古学研究室

調 整：京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課

刊 行：2023年（令和5）10月8日（日）